

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272301066		
法人名	有限会社 吉原介護センター		
事業所名	グループホーム 陽気		
所在地	静岡県富士市伝法657-1		
自己評価作成日	平成21年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272301066&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所		
所在地	静岡県静岡市葵区昭府1丁目8番35号ツキヂ商事ビル4F		
訪問調査日	平成22年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎日体操し天気のよい日は散歩をしている。 ②週3回以上、転倒予防体操をしている。 ③昼食前、夕食前には、口腔体操、嚥下体操をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月2回のスタッフ会議により、職員間の連携や連絡はスムーズに行われている。職場内研修も充実し、色々な分野の内容を年間計画に基づいて実施されており、職員のスキルアップの向上が図られている。また、「男女共同参画社会づくり宣言」も早々になされ、職場環境も働きやすいものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「よくしゃべり」「よく笑う」「よく歩く」「よく褒めあう」の四つのモットーを生かすようにしている。	毎朝の体操の後、四つのモットーを全員で唱和し、その中で一つの目標を皆で決め実践している。また夕食前に今日一日モットーが実践できたか振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雨天時以外行っている散歩で神社までの参拝時に挨拶を交わしたり、入居者も近所の美容院を利用している。	散歩時に挨拶や交流をしている。また、行事や防災訓練などにも地域の一員として参加している。	地域包括支援センターとの連携についても、今後検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は転ばん教室を実施していたが、現在は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度「運営推進会議」を実地し入居者家族や民生委員の意見を現場職員に伝えよりよいサービスを提供するよう努めている。	家族等が参加しやすいよう開催時間が夕方からに設定され、二ヶ月に一回定期的に開催されている。意見交換が活発に行われており、それをサービス向上に行かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回相談員が来られ入居者とふれあい気づいた点を書面でいただき改善しサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議には毎回必ず行政の担当者が出席しており、情報交換・意見交換は活発に行われている。行政と連携し、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを宣言し職員全員で取り組んでいる。日中は鍵をかけないケアを行っている。	身体拘束ゼロ宣言に基づき、拘束のないケアを実践している。また、常に何が拘束になるのかを考え、それに対するの改善に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議でどんなことが虐待になるのか話し合い職員一人ひとりが再確認し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外の講習に参加しスタッフ会議等で話し合っている、また一部の入居者(身寄りのない方)には、後見人がついている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にキーパーソンと話し合い不安点には、丁寧に答え納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、支払時運営会議等で随時意見等を述べていただくよう声かけしている、意見等があれば解決させている。	ケアマネが最低月1回の家族の面会の日に合せ、話し合いの時間を持つようになっている。日常的な連絡はリアルタイムに行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や気づいたときに提案するよう日頃から声かけし、提案があれば検討しよければ取り入れている	管理者も月2回のスタッフ会議に参加し、職員同士忌憚のない意見を出し合っている。その話し合いの内容を運営の中に反映できるよう取り組んでいる。	自己評価や個人面談の実施により、会議の中では出しにくい意見など、より細やかに職員の意見や提案を取り入れて行くことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修に出席すれば、研修手当を支給している、外部研修に出席すれば残業扱いとして、給与に上乘せしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	後見人制度についてや認知症実践者研修等への参加を促し参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交流会や、職員の交換交流に参加し、他施設の良いところ等をスタッフ会議で話し合い、取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前によく話を聞きご本人のニーズを把握したケアプランを作成し応えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前によく話を聞きごご家族のニーズを把握し応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり話を聞き必要としているサービスの優先順位を考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支援や洗濯物を干す、たたむ等を一緒に行う中で料理の仕方や味付け洗濯物の干し方を教わったり時には冗談を言い合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や支払で訪れた際、入居中の様子をお話した上で、ご家族の意見や苦情をお聞きし生かすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの主治医への通院を継続されている入居者もいる。	近隣の人であれば、馴染みの人にあえる機会を作っている。また法人内のサービス利用をしている人がいれば、そこへ出かけ、今迄の関係が途切れないよう支援している。	所属していた趣味活動等への参加の機会が持てる様、検討を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時の席を決め、なじみの関係が、つくられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴や様子観察に努め本人の希望、意向の把握につとめている。	利用者との話し合いの場である「陽気の会」で意見や希望を出してもらい、サービスに反映させている。また、担当者は本人の様子を見ながら声をかけ、意向や希望を確認、把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家具等今まで使用していた物を使用している、また生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の体操、散歩、参拝、レクリエーション等一日の流れの中で、コミュニケーションをとり把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を聞いたり、様子観察をして職員が介護計画を立て家族には面会、支払等で来所された時に意見を聞き取り入れるものは、取り入れるようにしている。	職員は担当する利用者の思いや日頃の様子をまとめ、それをスタッフ会議で話し合いをしている。また、家族の思いや意見を聴き、介護計画に反映できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護に対する取り組み等は申し送りノートに記入し職員は必ず読むようにしている、また日勤者、夜勤者から日勤者へ、利用者の状態等の申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月一回家族と外食に行かれる、利用者がいるご家族が同行予定の病院受診も事情により職員が同行することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	相談員と話すことを楽しみにしている利用者もあり月一回の相談員訪問継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を定期的を受けている方もいる。	本人がかかりつけ医の受診を希望する場合、継続的に受診できるよう、家族と協力しながら支援している。遠方の病院であっても同じように対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が在職しており必要時は相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に鷹岡病院と契約し必要時対応できるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフ会議にて看取り介護について話し合いを行った。	看取りについては本人、家族の気持ちを大切にしている。職員には方針をスタッフ会議で伝え共有している。	今後医療面での対応、精神的支援などの研修を定期的実施し、職員の不安の解消やスキルアップに努めることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月一回の全体研修等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区の防災訓練や社内での防災訓練を定期的に行い地域の人々の協力を得られるようにしている。	ホームでは勿論の事、地域の訓練にも参加している。また夜間にも訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には職員一人ひとりが、機軸つけるようスタッフ会議等で伝えている、また社内研修会で研修をおこなっている。	利用者一人一人の人格を尊重し、言葉掛けや対応をしている。また研修を通じ、何が大切なのかを常に考え、サービスに反映している。	今後も研修や職場内の会議を通じ、職員間の共通認識をさらに高めて行くことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけは一人ひとりの状態を考えながら、その人にあつた声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	散歩、参拝、体操と日によって参加、不参加を自分で決めてもらっている、買物の希望があれば日を決めて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	決まった床屋、美容室に定期的に行かれるかたもいらっしゃる、先日パーマをかけられた利用者のメイクを職員がお手伝いした。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭く人、お盆を並べる人、味噌汁をよそう人、配る人と皆で協力しておこなっている、下膳は5名の方は自分で行っている。	食事は利用者と職員と一緒に考え作っている。配食や後片付けも職員と一緒にいき、皆が協力している。また、職員は常に楽しい雰囲気の中で食事できるよう気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便秘がちな方にはには毎食後お茶を必ず一杯は飲んでいただいている、食べる量もその方の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて行う方、介助の必要な方等その人にあつた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2名の方は排泄チェック表を付け排泄パターンをつかみ失禁する前にトイレ誘導するよう心がけを行っている。	アセスメント(センター方式)を活用し、一人一人の特徴を捉え、必要に応じ声掛け等を行い、トイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維を多く取り入れたメニュー作りをし、体操を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に入りたい人、午後に入りたい人1番に入りたい人等それぞれのニーズに合わせて対応している。	時間、回数など本人の希望に沿って実施している。また入浴が楽しい時間になるよう、歌を歌ったり、入浴剤で温泉の雰囲気を出したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等普段は起きている時間でも、本人の訴えや表情、動作などから判断し声かけし臥床していただくかたもいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、目的等はケア日誌の後ろに一覧表にして職員がいつでも見ることが出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掲示物の作成や塗り絵、折り紙等その方の好きなことをやっていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	正月に向けて洋服と化粧品を買いたいと希望があり職員と買物にいかれました。スリッパも買われました。	毎日の散歩以外にも、希望により外出の支援を行っている。また週に3回程度、日用品や飲食物の購入は一緒に出かけ、本人が選択して購入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社に参拝される方は、5円を持っており参拝時に使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がいらっしゃる、家族からの電話は取り次いでいる、手紙等も依頼があればだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者手作りの作品を飾り、廊下の壁には利用者の手がけた掲示物や行事の写真を貼っている。	季節感を出すために貼り絵を一緒に作り、掲示している。また行事の写真も定期的に掲示し話題づくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファがあり利用者が自由に使用できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを置いたり、好きな歌手や動物のポスターや写真を自由に貼られている。	使い慣れた家具や、好きな歌手や動物の写真などを飾り、本人の落ち着ける空間を作っている。また自分が行った生け花を居室に飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎朝体操の前に日付を利用者に聞き答えてもらっている。		